

ウイグル、チベット報道の疑問

本質は 實業他 民族へ の侵略問題



中国で、ウイグル独立派組織によるとされる武力闘争、いわゆるテロ事件が頻発している。今年、多くの被害が出た事件だけでも、雲南省・昆明駅での刃

物による死傷事件（3月1日）、新疆ウイグル自治区・ウルムチ南駅での爆弾事件（4月30日）、同・ウルムチ朝市での爆弾事件（5月22日）などがあ

ム街の取り壊しがあった。また、地方でも、ラマダン（断食月）中の開店が強制され、スカラフを付けただけで、女性が拘束されたという。

侵略であるとはほとんど言わない。5月23日の「いちからわかる」欄で、ウイグル問題の歴史的背景を解説しているが、その年表に「49年、中華人民共和国

政治的自由を全く奪い、民族文化すら禁止するのは、ウイグル人の存在そのものを否定することである。だからこそ彼らは、命を懸けて

朝日新聞研究

▷ 5 ◁

さかい・のぶひこ 元東京大学教授。1943年、神奈川県生まれ。70年3月、東大大学院人文科学研究科修士課程修了。同年4月、東大史料編纂所に勤務し、「大日本史料」(11編・10編)の編纂に従事する一方、アジアの民族問題などを中心に研究する。2006年3月、定年退職。現在、明治学院大学非常勤講師や、月刊誌でコラムを執筆する。著書に「虐日偽善」、「狂う朝日新聞」(日新報道)など。

拠りか同一の日本が過去反省しているなら中国にも忠告せよ

力の連鎖というが、侵略という原因があるから、ナチス・ドイツへのレジスタンス（抵抗運動）のように、結果としてテロ化すら禁止するのは、ウイグル政治的自由を全く奪い、民族文化が出現するのである。しかも、人の存在そのものを否定することである。だからこそ彼らは、命を懸けて抵抗するのである。